

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 35

2010年11月16日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

★今回の“静大ラボ紹介”は、平井浩文先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「オプトロニクスフェア2010in浜松」のご案内
2. 「全国イノベーションコーディネータフォーラム2010」のご案内
3. 「これからの〈まち〉の姿を考えるー工学&情報学の視点から」
ご案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更して
います。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

1. 「オプトロニクスフェア2010in浜松」のご案内

日時 2010年11月24日（水）13:00～17:00
11月25日（木）10:00～16:00

会場 アクトシティ浜松 展示イベントホール

主催 文部科学省、（財）浜松地域テクノポリス推進機構

後援 静岡大学 ほか

プログラム

<1日目>

- 基調講演「オプトロニクスの軌跡と展望」
（株）野村総合研究所 コンサルティング事業本部
チーフ・インダストリー・スペシャリスト 池澤直樹氏
- 展示会
- 交流会

<2日目>

- セミナー
 - 「光配線板の量産化に向けた検査技術」
 - 「我々が思い描いた3次元ディスプレイ・・・これが本当の3D」
 - 「最近の超音波応用技術」
 - 「動画像理解ビジョンセンサの開発
-人検出と特徴点追跡に関する成果報告-
- 「X線イメージングにおける
マイクロフォーカスX線源の現状とその応用」
- 「忠実色再現画像システムの成果について」
- 「ナノ材料による新しいモノづくり」
- 「EXA顕微鏡の成果について」

- 展示会

参加費 無料（情報交換会は参加費3000円／1名）

申込/詳細 http://www.optronics-cluster.jp/info/fair_m.html

問合せ先 （財）浜松地域テクノポリス推進機構
オプトロニクスクラスター本部事務局
TEL 053-489-9111 FAX 053-452-0016
E-mail optronics-cl@hamatech.or.jp

2. 「全国イノベーションコーディネータフォーラム2010」のご案内

日時 2010年11月29日(月) 14:00~17:00
11月30日(火) 9:30~12:00
会場 アクトシティ浜松コンgresセンター4階41会議室
主催 独立行政法人科学技術振興機構
プログラム

<1日目>

- 基調講演「今後の地域イノベーションについて」
増子宏 (文部科学省 科学技術・学術政策局
科学技術・学術戦略官(地域科学技術担当))
- 特別公演 I 「日本は何で稼ぎ、何で雇用するか」
-地域からのイノベーション戦略とコーディネータの役割-
塚本修 (東京理科大学 特命教授、
前 経済産業省 地域経済産業審議官)
- イノベーションコーディネータ表彰・表彰式

■交流会

<2日目>

- 特別講演 II 「歴史は事実を物語り、事実は未来を創れる」
津田紘 (財団法人浜松地域テクノポリス推進機構 理事長)
- パネルディスカッション
「これからの産学官連携とコーディネータの役割」
モデレータ: 藤井堅 (東京農工大学大学院技術経営研究科 講師)
パネリスト: 津田紘 (浜松地域テクノポリス推進機構 理事長)
登坂和洋 (JST 産学官連携ジャーナル編集長)
五味由紀子 (株式会社GFN 代表取締役)

※イノベーションコーディネータ表彰受賞者から2名参加予定

参加費 無料(ただし、交流会参加費は3,000円)
詳細/申込 <http://www.sanrentenkai.jp/cdf-2010/>
内容問合せ先 科学技術振興機構イノベーション推進本部産学連携展開部
TEL 03-5214-7519 FAX 03-5214-8454
申込問合せ先 コーディネータフォーラム事務局
(財)全日本地域研究交流協会
TEL 03-3831-5911 FAX 03-3831-7702
E-mail forum2010@jarec.or.jp

3. 「これからの〈まち〉の姿を考えるー工学&情報学の視点から」
ご案内

◆静岡大学・中日新聞連携講座
【第2回】「超臨界・亜臨界流体がひらく新しい環境・エネルギー技術」
日時 12月11日(土) 14:00~16:00
講師 佐古 猛(静岡大学創造科学技術大学院教授)
【第3回】「ガバンスからみた平成の市町村合併」
日時 1月8日(土) 14:00~16:00
講師 西原 純(静岡大学情報学部教授)
【第4回】「経営情報学からモノづくりのまち・浜松を考える」
日時 2月12日(土) 14:00~16:00
講師 田中 宏和(静岡大学情報学部教授)
【第5回】「東海地震について考えるための防災ゲーム」
日時 3月5日(土) 14:00~16:00
講師 前田 恭伸(静岡大学工学部准教授)
会場 TKP浜松カンファレンスステーション会議室2
(浜松駅ビル「MAY ONE」4階)
参加費 無料(先着順)
申込方法 FAX、メール、ハガキのいずれかでお申込みください。
詳細 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event00046.html>

問合先 静岡大学生涯学習教育研究センター
TEL 054-238-4817 FAX 054-238-4817
E-mail LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

《 静大ラボ紹介 -20- 》

農学部応用生物化学科 平井浩文 准教授
<http://www.agr.shizuoka.ac.jp/c/biochem/index.html>

皆さんは「バイオレメディエーション」という言葉をご存知だろうか。微生物などを使って汚染された環境を元に戻すことである。ウスキイロカワタケ(YK-624)という白色腐朽菌はダイオキシン類を分解する能力を持っているが、平井先生はこの菌が作る酵素がダイオキシン類を効率よく分解することを突き止めた。

YK-LiPというその酵素をYK-624に沢山作らせることにより、汚染された土壌の浄化が可能となる。また、YK-LiPはリグニンを分解する能力にも優れていて、木材からバイオエタノールを製造する際にリグニンを除去する工程に利用できるのではないかと期待が高まっている。

平井先生の技術が環境浄化に利用され、化石資源依存型社会を根底から覆し、日本の森林が油田化する日が来るかもしれない。

(記：技術移転コーディネーター 伊藤悟)

《 みんなのコラム -34- 》

仕事をする上で、知識や経験は大変貴重な財産である。たくさんの知識や経験を積み重ねることで正しい判断の下に迅速に仕事を進めることができる。「この道一筋、〇〇年」と前置きされると、それだけでその人の意見や考えが正しいかのように聞こえる。

しかし、「この道一筋、〇〇年」を穿った見方をすれば、「この道」しか知らないことになる。つまり、特定の企業や研究室のみに属していた人の知識や経験は、それらの企業や研究に偏ったものであると言わざるを得ない。

様々な立場の人が集う新技術説明会において、思いも寄らない企業や研究室から問い合わせがあっても驚くことも珍しくない。このように自分が「意外」と感じたときは、自分の知識や経験に偏りがあると自戒すべきである。

知識や経験は、仕事や研究の質を向上させる貴重な財産ではあるが、一方で自由で柔軟な発想の下に新しい価値や理論を創造する妨げとなることがあるということをお話し手も聞き手も十分に気をつけたい。

(記：静岡大学知的財産アドバイザー、
居藤特許事務所 弁理士 居藤洋之)

《 編集後記 》

先月、浜松地域の産官学連携組織『はままつ次世代環境車社会実験協議会』の走行実験開始セレモニーが挙行されました。同協議会メンバーである静岡大学には、プラグインハイブリッド車(スズキ スイフトレンジ・エクステンダー)と電動二輪車(ヤマハ発動機 EC-03)が1台ずつ配置され、当センターの業務に使用し走行実験を行っています。
<<http://www.shizuoka.ac.jp/info/20101007.html>>

スイフトレンジ・エクステンダーは、バッテリー残量が少なくなると発電用エンジンが自動的に発電しその電気で走行できるため、立往生の心配はありません。「切替時の音でエンジンの存在を思い出す。」とのスタッフ談です。また、静音走行による危険回避のため車両接近通報装置がついており、ピッピッピッと音がするものの、音楽を聞きながら

話しながら学生が歩く構内では少々困ることもあるようです。
輸送用機器関連産業を取り巻く環境が大きく変わろうとしている今、
期待高まるEVの新しい取り組みを、ぜひ産学官の連携の力で発展させて
いきたいと思ひます。

* - *

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp まで
お願いします。(↑送付の際は○欄に@を入れてください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター (IJRC)
編集：原典子
編集責任者：木村雅和
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1414
URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

* - *
Copyright (c) 2008-2010 Innovation and Joint Research Center,
Shizuoka University. All rights reserved